

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3371100375		
法人名	(株)メディカメント		
事業所名	グループホーム いやしの家 備前		
所在地	岡山県備前市伊部323-1		
自己評価作成日	平成25年11月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3371100375-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階
訪問調査日	平成26年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成16年の開所から10年。今も静かな環境は変わりなく、いつも笑い声の聞こえるホームです。季節のお花、野菜も職員と一緒に育て、収穫し、戸外の生活も充実しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

まず利便性に優れている。国道2号線・警察署・駅・商業施設が半径1km以内にある。玄関に飾られた絵手紙サークルの愛好家たちが進呈してくれた贈り物が訪問者を迎えてくれる。保育園児の慰問、中学生の体験学習、大学生の実習、ボランティア、看護職によるタクティール実習等、多くの人達との交流が盛んである。入居者は朝の一日の始まりに玄関先に集まり、日光浴や外気浴を兼ねて体操や歌を歌うなど、爽やかな時を過ごしている。畑で季節の野菜を育て、洗濯物や布団の取り込みなどを手伝い、役割を持って日々生活を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに理念を掲示し、二カ月ごとのミーティングの始めに理念を確認して職員で共有している。	理念をスタッフルームの目に付く場所に掲示し、ミーティング時に確認をして意識付けを図り、実践に繋げている。開業当初に考案した「明るく、優しい」をモットーに、声掛けや対応時の笑顔に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	文化祭や備前焼祭りなどの地域の催しがあれば参加している。	公民館の文化祭や備前焼祭りに参加している。絵手紙サークル、銭太鼓、コーラス、保育園児の慰問、中学生の体験学習、地元出身の大学実習生の受け入れ等、地域との交流を深めている。	「草加病院芸術展」に入居者の人形等の作品を展示し、その専門性が話題になっているようなので、今後も出品の機会を捉え本人の喜びとなる支援を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年夏休みに中学生のボランティアの受け入れをして理解を深めてもらえるようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で現況報告をしたり、意見を聞きサービス向上に活かしている。	運営推進会議を町内会長や家族等が参加し開催している。現状報告や活動報告をしたり、施設の案内や運営に関する話し合いが行われ運営に反映させている。	運営推進会議は事業所の様子や状態を行政に知ってもらえる良い機会となるので、こまめな案内を行い、行政関係者が参加することに期待を寄せる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居状況を報告し、協力関係に取り組んでいる。備前市グループホーム連絡会では、実状を報告し協力関係を築いている。	備前市独自の「グループホーム連絡会」に出席して勉強会や見学会を通して協力関係を築いている。市当局には転倒事故報告や事業所の空き情報を報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開所以来玄関に鍵をかけることはなく、日中は自由に出入りできる状態にしている。	職員は事例状況を分析・検討して身体拘束に関する理解の確認をしている。転落防止策として、拘束を行わず見守りに徹し、安全確認をしている。家庭的な雰囲気の中で平穩に落ち着いた生活を送っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	出来る限り研修など学ぶ機会を持つように心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度についての理解はできるだけ学ぶ機会を持ち、必要が生じたら活用できるようしていきたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族が尋ねやすいようにゆっくりと時間をかけ説明を行っている。改定時は説明と同意書も作成している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には介護記録をかならず見ていただき、意見や要望があれば運営に反映させている。聞きやすい状況を作る為、口頭で近況も伝える様に心掛けている。	家族の面会時には必ず利用者の介護記録と飲み物を出し、利用者の日々の様子を把握してもらい、解らない点等を質問してもらっている。日々の利用者の様子や反応を観察し、意向に添える様に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	二カ月ごとのミーティングで機会を持っている。毎月の本社会議で意見や提案を代表者に伝えている。	ミーティング時や昼食後のカンファレンスで意見や要望を聴く機会を設け、出された提案を本社会議に提出している。日常の関わりでコミュニケーションが図れるよう話し易い雰囲気作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理委員会で報告を受け、状況を把握し整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップや資格取得に必要なならば勤務調整など協力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	備前市独自の「グループホーム連絡会」で勉強会や見学会を行い質の向上になるように取り組んでいる。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に入所初期には顔なじみになり安心して話ができるように声掛けの回数を多くするように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や心配の多い初期には特にこまめに報告をして信頼関係をつくる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援を見極め可能な限りの支援に努めている。特に初期のサービスを納得して頂けているか聞く機会をもつようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にする者同士の関係を築くため、お料理、洗濯、掃除など一緒にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に支援をする関係を築くため、介護記録に普段の生活をわかり易く記録し、訪問時に読んでいただき支援を共有している。面会は本人と家族だけの時間を大切にしている様に、居室でゆっくりして頂ける様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の訪問がいつでも気楽にしているだけのような雰囲気作りに努めている。	家族との関係を大切にし、利用料を持参してもらい積極的に話を聴く態度を示して訪問を促す工夫をしている。看護師によるタクティール、絵手紙サークル等の来訪者と馴染みの関係となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しない様に、利用者同士の相性や趣味も考え、利用者同士が関わりやすいように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じた相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、希望や意向が引き出せるように一人ひとりと話す機会を持つようにしている。	日々の生活の中でコミュニケーションを深め、希望や意向を捉えている。これまでの生活スタイルや嗜好を知り、介護記録から能力・様子を勘案して、思いや意向の把握に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで馴染んだ生活をできるだけサービスに取り入れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の記録で職員が把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	二カ月ごとのカンファレンスで話し合い、家族からも意見や要望をきき介護計画を作成している。	2ヶ月毎にカンファレンスや適時モニタリングを行い、サービスの状況を検討している。家族からの意見や要望を聴き、日々の介護記録・申し送りノートから状態の変化を知り、計画の見直しに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノートを活用して介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	豊かな生活ができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族で決めてもらって、納得のできる医療を受けて頂くように支援している。	隣接の事業所と交互に隔週で協力医が往診に来てくれるので、体調が悪い時には隣の往診のついでに診察に寄ってもらえる。訪問看護師との連携も図られており、異常の早期発見に努め、適切な医療が受けられる様支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護で様子を報告し指示をもらって、適切な受診が受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	月二回の往診で日ごろの健康状態を知っていただき、日常の変化に早く気付いて早期入院、早期退院を医療機関と一緒に考えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの説明をして同意書を得ている。 重度化した場合は、その時点で再度家族・医療機関と話し合っている。	協力病院が夜間は利用者のカルテを病棟に移動させてくれたり、入院用のベットも確保してくれたり、いつでも緊急時の対応をしてくれているお陰で、出来るだけ最期まで事業所で暮らせる支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡や対応を掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回昼・夜想定で避難訓練を行っている。	年2回、避難通報マニュアルに基づき昼夜想定避難訓練を入居者と一緒に実施している。防火設備は整っている。災害時対策としてレトルトのおかずを備蓄している。今後は水の備蓄を検討中である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの時には、声の大きさや場所に気を配り支援している。	誘導時の声掛けに気を配り、プライバシーへの配慮を示すよう支援している。本人の生活リズムを大切にし、思いの表出に努め、答えやすい質問を投げかける等工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを表し、実現できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で細かい取り決めをせず、一人一人の生活のリズムを大切に、希望に添える様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院を利用できるように支援している。二ヶ月毎に地域の理容院がカットに来てくれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事を準備したり、自由に食べていただけるようにできるだけ介助は控え好きなように食べていただくようにしている。お誕生日には食べたい物を聞き、出来るだけ希望に添うように考えている。	敷地内の畑で季節の野菜を育てて収穫し、食卓に上っている。魚は日生の魚店から仕入れ、新鮮で美味しく利用者からも好評である。行事食や特別食を取り入れ、食を楽しむ支援もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事のチェック表で一日の必要量を確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアでひとり一人にあったケアをし、入れ歯も毎晩消毒している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用してトイレでの排泄を基本にしている。	「トイレ」と大きく表示して自立を促している。トイレでの排泄を基本とし、本人の排泄のパターンを知り、随時に誘導している。水分摂取の確認や冷たい牛乳等で便秘の予防をし、体調管理をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足に注意したり、朝の冷たい牛乳で排便を促したりして下剤にたよらない排便に心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	湯船に浸かることを基本とし、冬至にはゆず湯をするなど入浴を楽しんでいただく工夫もしている。	隔日の入浴となっている。丁寧な声掛けにて本人の意向を確認し誘導している。冬至には「柚子湯」等楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの習慣を大切にするため一人一人睡眠時間はちがっている。 昼食後は各自の居室で自由に過ごして頂くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、効能、副作用など薬剤師の指示や指導で確実な服薬支援をし、確実な服薬が出来るように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人のできる能力を活かし、楽しみながら役割ができるように支援している。趣味を活かして気分転換を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	さくら、藤、コスモスなど季節感のあるお花見を楽しんだり、家族の協力で外食や外泊も自由に楽しんでもいただいている。	シーサイド和気へ桜の花見、和気の藤公園へ藤見、吉井町へコスモスやかかし祭り等の外出支援をしている。備前焼祭りや文化祭に出掛け、朝一番に日光浴、外気浴を兼ねて、玄関先で体操や歌を楽しんでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば買い物に同行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりも希望に応じた支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のお花を活けたり、季節感のある壁画を飾ったりして居心地の良い空間を作っている。	入居者の活動能力や状態に合わせて、配席の配慮をしている。玄関には季節の花を飾り、食堂兼リビングには季節を感じる飾り物が施されている。畳のコーナーがあり、見た目にも和風で落ち着ける場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のコーナー、ソファのコーナーなど思い思いに過ごせる場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族で相談して思い思いの居室にしている。	居室入口には表札を掲げて他室との区別をしている。化粧品や日用品、椅子、机、カレンダー、写真などを思い思いに置き、自分らしい部屋作りをしている。床を整備して歩行の安全への配慮も行われていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所に迷わずに行けたり、安全に移動ができるように障害物は置かないようにしている。		